

フィリピン・ダバオ日食観測

森 友和

〔旅行計画〕

1月に交通公社から話があり、手配旅行の企画をしましたが、2月に入り、集まった人数が60人近くにもなり、『交通公社主催』旅行に切替りました。ところが、外務省からの再度の通達で、再び手配旅行に切替わるという、参加者にたいしてご迷惑をかけた旅行計画となってしまいました。最終的には、参加者43人で成田を出発致しました。

〔ダバオへ〕

3月15日19時成田発、途中沖縄経由でマニラに着き、2時30分にマニラを出発、ダバオへ向かう。ダバオ空港が霧のために途中セブへ引き返し空港が使用可能となってからダバオに着いた。ダバオ空港からアボ・ビュー・ホテルまでは、ホテルのマイクロバスとジープニーで移動した。予定では、バスの安全を守るため、正規軍が各バスに2名づつ乗るはずでしたが、到着時間が大幅に遅れたためか添乗しなかった。午後からは有志で観測地の下調べを数箇所行い、夕食前にその状況を報告し、全員の合意で宿泊ホテルと道路を面して隣にある、市営グラウンドの中で行うことを決定しました。

〔前日のリハーサル〕

17日は全員で市営グラウンドの中に南北線を引き、そのラインに一直線に並び第一接触から第四接触の時間までリハーサルを日食当日と同様に行った。リハーサルの日は快晴でした。午後からリハーサルを行ってみて感じたことなどについてミーティングを行い、その内容を添乗員を通じ、ダバオ市の日食担当者などに協力を要請した。夜7時30分からアボ・ビュー・ホテル内で行なわれたSCIENTIFIC FORUM AND PRESS CONFERENCEに招待され、3名が参加し、隣の席からやダバオのテレビインタビューなどの英語の質問で大変でした。

〔日食の情況〕

18日は朝から空はほとんど雲に覆われ、空の一部に晴れ間があることで期待をつないだ。第二接触までは雲の合間から部分食が見え隠れする状態が続いた。雲間から欠けた太陽が顔を見せるたびに、我々日本の観測陣を取り囲んだ数千人のフィリピン人が拍手と喝采をあげた。第二接触の少し前に小雨がぱらつき、望遠鏡にビニールを被せる人もいた。第二接触直前から雲が薄くなり、第二接触時のベリービーズの観測は出来、太陽が完全に月に隠されると、薄い雲を通して、内部コロナを見ることが出来た。しかし、その間は10秒程で、直ぐ様比較的厚い雲がコロナを隠してしまった。第三接触のベリービーズも薄雲を通して観測出来ましたが、この時、この薄雲のおかげで、我々の頭上を本影が、西から東に移動して行くのを観測することが出来た。それは、あたかも、黒い幕が西から東に向かって飛んで行くような光景だっ

た。観測者の感想は色々で、『意外とゆっくりしていた』と言う人もいれば、『とても速く移動して行った』と言う人もいます。

第三接触後も部分食は雲間から見え隠れし、その状態が第四接触まで続きました。大変皮肉な事に、その日の午後からは、空には青空が広がり、ダバオの天気の女神を恨んだのは私一人だけでは絶対ないでしょう。

〔ダバオの人々との交流〕

私達が観測場所に決めた市営スポーツセンターはダバオ大学・小中学校の近くということもあり、数千人の観衆に囲まれての観測でした。多分、日本人が数十台の望遠鏡を並べて日食観測をしている光景は、彼等にとってみれば、とても珍しいものだったのでしょうか。太陽の方を見ないで、ずっと私達の行動を見ていた人が多かった様な気がします。当日は学校は日食の為に休校になっていました。先生から、『外国から日食を観測に来た人にインタビューをしてくれるように』との宿題で、ノートを片手に持った中学生にインタビューを受けている光景が随所に見うけられた。観測中、女の子たちが、日本から来た観測陣のために、空が晴れるように数人で円陣を組んでお祈りをしてくれたことや、空が晴れるよう歌を唄ってくれた事などとても感動をいたしました。

観測後の晩餐会には、ラジオ放送、テレビ局、新聞・雑誌記者などが駆け付けて頂き、隊員の感想と合わせて、記者からは、現地ですべて初めて日食を見た感想なども伺いことができました。

〔危険なダバオ〕

ホテルの玄関には常時5～6名の銃砲を持ったガードマンが警戒をし、ちょっとした店舗でも実弾入りのピストル・自動小銃を持った私兵がいます。スリ・強盗はよく起こるそうです。サマル・アイランドへのオプション・ツアーの際、スリに危うくやられそうになった隊員もいました。日食当日の朝、反政府勢力が『外国人相手に行動を起こす』との情報が入りましたが、案の定、18日の夕方、飛行場への電気ケーブルが切られ、その日のナイトフライトは滑走路に照明が灯らずに飛行中止。18日に早めに帰ろうとした参加者2名は、翌日のフライトのキャンセル待ちを余儀なくされました。幸いにも翌日、全隊員は無事にダバオを立ち、そしてマニラ、成田へと予定通り帰国致しました。